

府中市生涯学習審議会（平成26年度第1回）会議録

1 日 時 平成26年4月28日（月）午後2時～4時

2 場 所 府中駅北第2庁舎 3階第1会議室

3 出席者（敬称略）

（1）委員14名

石田 和男、井上 治男、大谷 久知、川内 清文、木内 直美、小林 繁、
茂田 嘉彦、設楽 厚子、芝 喜久子、鈴木 映子、田野倉 晴美、
寺谷 弘壬、三宅 昭、山内 啓司

※澤井 幸子委員は欠席

（2）職員4名

矢ヶ崎生涯学習スポーツ課長、古田生涯学習スポーツ課長補佐、
目黒学習推進係長、大木事務職員

4 開会

（1）会長あいさつ

これから大型連休に入ろうとしている。府中も5月のお祭りを迎える準備で活気づいてきている。町の伝統文化が介入していく大きなお祭りなので、間近で楽しんでいただけたらと思う。また、ケーブルテレビでも放映しているようなので、外に出られない時は見ていただきたい。そして、審議会では第6期の2年目を迎えた。昨年度は推進計画の振り返りをしてきたので、今年度は推進計画の今後の展開に関して話し合えればと思う。また、今年度で答申もまとめていかなければならないので、皆様のご協力をお願いしたい。

（2）課長あいさつ

忙しいお時間にお集まりいただき、ありがとうございます。平成26年度第1回ということで、事務局の体制も少し変わっている。後ほど自己紹介をさせていただくが、前任の市ノ川係長が昇格し、子育て支援課長補佐ということで異動になった。後任の目黒係長が今後審議会を担当させていただくことになったので、よろしく願いしたい。そして、今年1月の審議会でご質問があったと思うが、「文化センターあり方検討協議会」について、先日、中間報告が提出されたことを受けて、本日、文化センターを所管している、市民協働推進本部 市民活動支援課長補佐及び、担当係長に出席していただき、後ほど、中間報告の概要を説明していただく時間を設けさせていただきたい。

(3) 事務局自己紹介

5 報告・連絡事項

(1) 配布資料の確認

- ①平成25年度 第9回生涯学習審議会会議録(案)
- ②定期総会の資料
- ③全国社会教育委員連合の概要等
- ④府中市文化センターあり方検討協議会(市類似機関)の設置について

(2) 議事録の確認

平成25年度 第9回会議録(案)について、市民に公開することが了承された。

(3) 「府中市文化センターあり方検討協議会」について

岩田市民活動支援課長補佐より配布資料に沿って説明。

その後、以下のとおり意見交換が行われた。

[意見の趣旨] ■ : 委員 ⇒ : 市民活動支援課

- 今、お話しいただいたが、質問はあるか。
- 参考までに聞きたいのだが、公民館のあり方というのは、市民活動支援課の中で今後検討される予定があるのか。
⇒ 公民館に関しては、条例所管が生涯学習スポーツ課になっているので、市民活動支援課が主導でやることはできない。文化センターで公民館事業を行っている関係もあるので、生涯学習スポーツ課と協議を進める中で、今後の文化センターのあり方についての考え方が決まってくると思う。
- コミュニティー協議会(以下、コミ協)が11館で開かれているかと思うが、どういった内容の話し合いが行われているか分かる公開議事録はあるのか。
⇒ 各コミ協における会議録の公開はしていない。
- 文化センターとなると確かに指定管理は難しい部分があると思う。複合施設であり、地域のお祭りなどの活動の場でもあるので、指定管理は難しいと思う。これからは使用料の見直しなどを協議会で審議していくのか。
⇒ 今後については、市とコミ協を始めとする地域団体との協働によって、今のやり方が良いのかどうか、さらに市民協働を進めるため、地域住民へのサービスの向上

を図るためには、どういう形が望ましいのか、また、文化センターにある施設の内容はこのままで良いのかについて検討していただく。

■ 文化センターの施設の内容を検討するということは、複合施設が崩れていくという可能性もあるのか。

⇒ 現在、児童館、高齢者福祉館、公民館、地区図書館と4つあるが、これは当課だけで全て決めるというわけではなく、該当する主管課と打合せを進めていく。例えば、文化センターから児童館や高齢者福祉館を無くしてしまうと、市内にそういう施設が全くないという状況になるので、その辺を踏まえたうえで、今後どう運営していくかは引き続き検討していきたい。現時点で、児童館、高齢者福祉館、公民館、地区図書館を無くすという考え方は持っておらず、現状のままの機能で協議会委員には協議していただいている。

■ 協議会で、不足していることなどのマイナス面が挙げられていると思う。児童館や高齢者福祉館は皆が活動しているので良いと思うが、私が利用している文化センターの公民館は社会教育的な公民館事業が少ない気がしている。そういう意見は協議会では出ていないか。

⇒ 事業の内容については、意見は出ていない。

■ 公民館、児童館、高齢者福祉館の使い分けが、市民に浸透していないと思う。

⇒ 市民にとっては文化センターという一つの施設があって、小さな子どもから高齢者まで誰もが使えるという施設で、分けがあるという認識をしているかどうかは分からない。

また、公民館事業の内容については、生涯学習スポーツ課が関連している講座とコミ協が関連している講座があるが、講座の中でも人気のある市民ニーズの高いものは継続して行っていくことが多く、参加者が少ないものに関しては見直しをするようにしている。

■ コミ協が主体になっている講座について、生涯学習スポーツ課に要望を出せば良いのか、コミ協に出せばいいのか分からない。

⇒ 市が直接行っているものと、コミ協が行っている事業と分かれるが、事業を企画するのは文化センターの職員なので、何か要望がある場合は参考にさせていただくので、文化センター職員にお声かけいただきたい。

■ 文化を継承していくためには、子どもから大人まで府中市の歴史を学ぶような講座があれば良いと思っている。

⇒ 公民館事業について要望がある場合は、生涯学習審議会から主管課にご意見いただいて、市民活動支援課へ情報提供していくという形をとっていただければと思う。

■ 文化センターあり方検討協議会はあと1年続くようなので、その内容を見ながら

生涯学習審議会の参考にしていけたらと思う。

(4) 東京都市町村社会教育委員連絡協議会 定期総会の報告

平成26年4月19日(土)午後2時～ 生涯学習センターゆとろぎ(羽村市)
(配布資料に沿って説明。)

- 今年度の関東甲信越静の研究大会は鎌倉で行われる。日帰りでも行けるので、今から時間を取っていただければと思う。今年度の5ブロックの幹事市は小金井市なので、ブロック研修会の詳細が決まったらお知らせする。

6 審議事項

(1) 答申の検討について

以下のとおり意見交換が行われた。

[意見の趣旨] ■ : 委員 ➡ : 事務局

- 諮問「第2次府中市生涯学習推進計画の振り返りと今後の展開について」。前年度は振り返りということで、市からの説明を受けて質問などをさせていただいた。今年度は答申に向けて進めていかなければならない。今後の展開についても皆様の知恵を拝借していきたいと思う。

推進計画の大項目が5つあるが、項目ごととなると大変になるので、最終的にまとめるのは、小委員会の中で枠組みを決めてもらうことになる。推進計画も5年経過した。後半も推進計画に沿って事業が行われていくので、それに向けての意見、どう展開していくかなどの具体的な話、今現場で起きている問題点などについてご意見をいただけたらと思う。

- わが町意識を求めるには、生涯学習スポーツ課や市民活動支援課の行政間の意思疎通を良くしていただきたい。住民からの要望を公民館講座に活かすことが良くあるそうなので、趣味的な講座が多い。郷土の歴史などの学習は、ふるさと歴史館や郷土の森ではしっかりやっているが、高齢者は地域の文化センターで学びたいと思っている。それを学んだ人たちも語り部として話すことができるし、子どもにとっても郷土学習は必要なので、生涯学習スポーツ課と市民活動支援課で協力してやっていただけたらと思う。
- 昨今、市長から行政と市民の協働という言葉をよく聞く。そこを大きく広げていかなければいけないと思う。

- 文科省の指導ではないが、上から引き連れてくると行政もやるかもしれない。
- 議事録に残していただいて、まとめに役立てていきたい。
- 先ほど、文化センターの公民館について、これから何をしていけば良いのか、足りないものは何なのかという話があった。今後の進め方などをどう捉えたら良いか迷っていたが、自分なりにそういう見方をすれば良いのだと思い、参考になった。
- その話は、推進計画の項目のどこに当てはまるのか。結局、この前も報告があったように、一つ一つ何かやっているというのは分かるが、ここがダメだというのが見つからない。そうすると横断的などころに問題があるように感じたので、そこを少し掘り起こすなど、何か課題を設けないとやっていることだけ分かって終わってしまう。
- 的を絞って皆さんで考えていった方が、話が進むのではないかということか。
- 何となく全体がぼやけていて、それぞれがやっているということになっている。どこがうまくいっていないのか、横断的に活動していないからなのか、または個別にダメなところがあるのか。そういう所を抜き出さないと議論が破綻してしまう気がする。
- そのために昨年度、推進計画の実施状況をひも解いて、投げかけてもらっていたが、お話を聞いていても、不足している部分についての話はなかった。
- 実施状況のようなまとめ方をすると、だいたいやっていることの報告で終わってしまう。実際にこれを有効にするためには、横の連携が必要だと思う。まず、課題を整理したはずだと思うが、その問題については出ていなかった。総合的に判断して、文化センターはあまり活発でないという雰囲気があるので、そういう問題点を浮かび上がらせないといけない。それぞれの課題や問題点を並べると横並びで終わってしまうので、もう少し複合的にやらなければならない。全部やると大変なので、もう少し狭い範囲で文化センターや公民館などと、それに関わるものをどう結び付ければ有機的に活用できるかを考えると良いと思う。
- 昨年度、説明していたのは、やっている内容で、その内容が良いか悪いかというのは別の話。その中身を精査しないとイケないが、全部はできないので、必要な所だけを挙げていきたい。生涯学習のもっと先を見極めるには、今後やるべき必要なことを出していただかなければならない。例えば、ファシリテーターは卒業しただけで、将来的な姿が見えていない。それが見えるような推進が必要で、そういう項目が他にもあると思う。そういうのを拾い出せたら議論が進むのではないか。
- 文化センターのコミ協に問題意識がないということが書かれている。問題意識を提供するためにはどうしたら良いか。
- 問題意識は持っていると思うが、コミ協はそれぞれのコミュニティーという形で

固まっているので満足している。

- 満足しているわけではない。地域住民が団体登録をして、団体から人を出して、会議をして、委託金の範囲内でコミュニティー事業をやっている。年間約20事業をやっているが、その中で子どもからお年寄りまで、皆さんが楽しめる事業を企画している。大きな事業の夏祭りは、小さな幼子からご老人まで参加して、それぞれのブースを持ったり、一体となって楽しめる事業をしている。自主グループは、文化祭という形で、今まで学んできたことを発表する。年間通して色々考えながらやっているが、参加者が多いものもあるし、もう少し検討しなければいけないものもある。公民館講座に関しては、コミュニティーは介入していないが、例えば、映画鑑賞会をお祭りに組み入れて、集客を目的として皆さんが楽しめるように合体してやっていることはある。
- コミ協の中で、生涯学習センターから補助金が出ていると聞いた。
- 公民館事業は市の予算で行っている。
- コミ協との繋がりはあるのか。
- ない。
- では、単独でどうやっているのか。
- 公民館の職員が事業を企画・運営している。私も公民館講座で要望を伝えたが、予算がないからと断られたことがあった。
- ➔ 公民館事業というものが大きくあり、その中の地区公民館講座を生涯学習スポーツ課が所管しており、文化センターが委託事業として行っているものである。従って、各文化センターで継続的に行っていた事業、または人が集まらなくなって見直しが必要な事業など色々あるが、その企画については、文化センターの担当者が行っている。その内容については、子どもから大人までを対象とした事業もあるが、家族向けの人形劇や映画鑑賞なども行っている。
- こちらの要望で予算がもう少し上がれば、色々な事業をすることも可能だと思う。
- 公民館講座は、参加者が少ないから止めるという質のものではないと思う。参加者が少なくても色々な形で啓発していかなければならないものは、地味でも継続してやっていかなければならない。参加者が多いからそれを主に続けていくという性質のものでもないと思う。公民館講座だからこそこできるものもあると思うので、そこも考えていかなければならない。
- 職員は市民のニーズを聞き入れない部分もあると思う。
- 難しいと思うのは、市民のやりたい事が多様化している。それを全て網羅することも難しいし、偏ってもいけない。どうしてもポピュラーなものにいつてしまう。

ファシリテーターを活用するなら、その人に意見を聞いたり、講座企画に加わってもらったりして、スケジュールを決めていくことも大事だと思う。せっかく6人がファシリテーター養成講座を卒業しているので、公民館講座の柱となるような形で派遣して会議を進めていくというもの良いと思う。

- 基本は府中市の行政の方針が決まらないと、私たちも公民館も宙ぶらりんになってしまう。環境問題などは地域から活性化したら、公民館講座は啓発事業などを絞ってやるのも一つの手かと思う。
- 確かに武蔵台文化センターなど離れているところは、講座ということに関しては活性化していない気がする。活性化している中央文化センターや生涯学習センターはうまくいっているということでのいいのか。離れた所と潤沢にやっているところではレベル差がある。そこを除外するのもしないのか。
- 生涯学習センターの場合は指定管理者制度を導入したので、独自に事業を進めている。
- 生涯学習センターでは公民館事業はどうなっているのか。
- やっていない。
- そうであれば、生涯学習センターは除外する。そういうところをはっきりさせなければならぬ。中央文化センターは人が集まっているとなると、それは場所の問題だけなのか、内容の問題なのかを考えていかないと絞られていかぬと思う。
- 公民館といっても11館ある。片町文化センターも自主グループの数が多い。紅葉丘文化センターは数が減って20団体程でやっている。地域性というか、そこに住んでいる人数によるのではないか。
- 公民館講座で、各文化センターにどのくらい集まったかというのは、あまり把握していないような気がする。
- 場所だけではなく、やっている内容も違うのではないか。全く同じなのか。
- 公民館講座は各館が色々な知恵を絞ってやっているが、提供するものは変わらない。自主グループが多い地域でも少ない地域でも、啓発する講座の事業数は変わらない。
- 回覧板で武蔵台文化センターの年間事業をみたが、講座らしきものがあまり無い。他の文化センターもそういう状態なのか。
- ➔ 公民館事業は社会教育法第22条に規定されていて、それに基づく事業を公民館の設置者である府中市が行うことになっている。予算については、11館に均等に振り分けられている。実際に公民館講座として行われている、年間4～5講座で予算が無くなってしまう。そのうち半分以上の講座は子どもを対象としているものが多いという状況である。社会教育なので、子どもからお年寄りまで全年齢が対象なの

だが、一概に悪いということでもないので、文化センターの企画として子どもの事業が出てきても予算執行はしている。生涯学習スポーツ課は司令塔的な役割はしておらず、文化センターの職員が企画したものに対して口は出していない。

講座以外には、文化センターでは自主グループが社会教育法に載っているような事業をやるために無料で施設が使える枠がある。自主グループが多い文化センターはあたかも行事が多いように見える。

自主グループが極端に多い中央・片町文化センターは交通の便が良いということが言える。先ほど、市民活動支援課の職員が話していたのは、地域のコミュニティー活動の拠点というところに着目していた。また、公民館11館あるが、中央館というのも設けていない。中央文化センターが中央館というわけではなく、同列の公民館が11館ある。子ども向けの講座が多いので、大人向けの講座が少ないのは免れない。

- 子ども向けのウォークラリーくらいしか見当たらなかった。
- 市民のニーズをどうやって吸い上げればいいのか考えていくのも良いと思う。
- 公民館講座は具体的で、一般の人でも分かりやすく、色々なことに参考になるような実利的なものでないといけない。例えば、緑の壁を作るゴーヤの種を配布しているが、私たちはそれを自分たちの地域に持って帰った。私が緑の壁を作ろうと声をかけただけで、コミ協や老人会など50人が集まった。実際にやった写真を環境保全センターの広報に載せるなど、それが活かされれば、その地域が生きてくる。

フォーリス前での打ち水も非常に涼しくなる。新しい水を使うのではなく、お風呂の残り湯を使えばエコになる。実際にやれば動き出すので、私も地域でやろうと思っている。やりたくない人はやらなくて良い。やりたい人だけやれば、自然に増えると思う。

公民館でやっている廃油で作る石鹼など、役立つものを公民館講座でやっていけば良いと思う。ゴーヤやへちまの育て方などを地域の人が「学び返し」として教えるのも良い。地域で広げていって、競い合うのも良いと思う。

- 公民館講座は初心者向けという話を聞いたことがある。地域で楽しく生活できるための仲間づくりなどを目的に参加して、生涯学習として続けていければと思う。公民館講座に専門的なものを求めてはいけないという意識でいるが、皆さんはどう考えているか。
- 入口だけで良いと思う。
- 女性問題、歴史問題は昔やっていたが今はやっていない。文化センターに専門的な大学教授がくるということはない。予算的にお金も無いので、身近な問題を提供するくらいの講座しかできないと思う。全市的に社会教育講座は生涯学習センター

で指定管理者と悠学の会でそれぞれやっているが、端々にある文化センターの教養講座は枯渇している。府中市の端に住んでいると、生涯学習センターまで行くのは大変なので、少し文化センターでも教養講座をやってほしい。

- 生涯学習センターの初心者向けの陶芸講座は、陶芸ボランティアが教えていて、その後は自主グループを立ち上げるという流れになっている。英会話やパソコン講座もそうだが、入口だけやって、その後は自主グループを作るのか、専門的にどこかのカルチャーセンターに行くかなど、流れを作るということが重要ではないか。予算がないということであれば、入口だけという概念で良い気がする。
- 地域での活断層がどうなっているのかなど、かなり難しい話だが、皆さん興味を持つと思う。だんだん引っ張っていくうちに純粋に文学的な勉強をしたい人たちも、そういう講座に入れるようにすればアレルギーを起こさずに入ってもらえるのではないか。
- 勉強のために教えていただきたいのだが、公民館講座を担当している職員は社会教育主事のような専門性のある方が企画しているのか。
 - ➔ 市の職員の配置については人事異動で動くものであるが、資格を持ったものを配置するところまでは行き届いていない。文化センターの職員についても、必ず社会教育主事の資格を持っているというわけではない。
- 文化センターの職員と生涯学習スポーツ課の職員が相談をするということはあるのか。
 - ➔ 年2回、各文化センターの公民館担当者と生涯学習スポーツ課の担当で事務的な説明会をしているので、そこで意見等をもらう機会はある。
- できれば、こういう議論があったことを反映してもらえると良い。
- 議事録を読んでもらえると良い。
 - ➔ 来月、その説明会があるので、今日の意見は伝えていこうと思う。今日来ていた市民活動支援課の職員もそれを考える立場であるし、今までは指定管理者についてばかり考えていたので、個別のところは検討されていなかった。
- 伝えていただければより良い。
- 答申を出すにあたって、府中市生涯学習推進計画の見直しや提案のような形なのか。
- 振り返りと今後の展開についてである。
- 行政が出した抽象的な諮問は本来おかしい。もっと具体的に、これについて答申を出してくれというのが、本来の諮問のあり方である。生涯学習推進計画の全般に渡って意見を出すというのは、容易なことではない。少なくとも、教育委員会が管轄する事業や施設に関してということであれば、対象を絞り込めるかと思う。生涯

学習推進計画はもっと広いので、スタンスがはっきりしなければ、私もどう意見を言えば良いか分からない。具体的に公民館の話が出てきたが、公民館運営審議会の方がいるのではないか。

- 府中市は公民館運営審議会、生涯学習推進協議会、社会教育委員の会議をまとめて生涯学習審議会としている。
- その中でも、公民館運営審議会を担当している人はいなかったか。
- いない。
- 今日の皆さんの話を聞いていて、公民館の役割や位置づけについて議論した方が良かったと思った。それを答申の内容の柱の一つに位置付けるなど、生涯学習推進計画全般に渡るのは大きすぎる。例えば、公民館について意見交換をする方向に持っていくと、具体的になりやすいと思う。ただ、文化センターのような複合施設というのは、同じ建物の中に複数の施設が入っているというだけでは意味がない。つまり、機能同士が結びついたり、ネットワークができているのが一つのポイントなので、公民館と児童館、児童館と図書館など事業などが結びついているかを点検しても良い。例えば、図書館と児童館での関係でいうと、図書館で読み聞かせの養成講座をして、児童館で読み聞かせをするなど、文化センター全体の機能を繋げていくような提言も必要なのではないか。講座をやっているのは、公民館だけではないのか。
- 他でもやっている。
- 10人以下の啓発講座をやるとすれば、公民館だけでなく、図書館や博物館など、他施設の講座の役割も知らなければならない。だからこそ、講座を関連づけていくことが必要になってくるのではないか。答申に向けての焦点をどこに向けるかを皆さんで意見を出し合っていくと良いと思う。この諮問は無責任だと思う。
- 確かに、テーマが大きすぎると思った。答申の検討など大きいテーマだと、どう話したら良いか分からないし、どういう話になるか分からないので、事前にテーマを絞って、皆さんでそれについて考えてきて発表すれば、もう少し絞った審議ができると思う。今の会議だと成り行きなので、もっと具体的なテーマでないと話せない。各回でテーマを絞っていただきたい。
- ➡ 確かに、皆さんからいただいたご意見はごもっともだと思う。生涯学習は領域が広いので、どのように委員の皆さんにまとめていこうか戸惑いがあると思う。この1年間でまとめなければいけないという終わりが見えているので、今後の進め方、スケジュール、具体的に事務局の準備は何が必要なのかを、会長と事務局で詰めさせていただいて、そのうえでご審議いただくという形もあるのかと思う。
- 誠にそう思う。諮問の振り返りと今後の展開について、委員の皆さんには地域でどんな動きがあるのか、自身が気づいた問題や課題を持ってきてもらった。そこか

ら探っていこうと思っていた。次回からは具体的な事項を皆さんに示せるようにしていきたいと思う。

- 今回だけではなく、5年経っているのも、今さらという感じもする。今まで検討してきたのは、学習センターを中心とする要綱のようなものを作るため、文化センターや公民館も入れるようにと思っていたが、ここを切り離すならそれでもいい。生涯学習審議会は動員する人間を持っていないが、公民館は実際にやりたいと言えば何人かで行動ができるし、文化センターも既存の自主的な団体がある。大きな枠でくくった理論的な示唆しかないと思っていたが、今は指定管理者導入はせず、市役所直営という形になっている。これを統一するとなると反発を受けて、審議会自体が風化してしまう。反省したら良いのだが、5年間何をやってきたかということにも繋がりがねない。
- 公民館だけではなく、生涯学習全般を考えていかないといけないと思う。ただ皆さんが意見を出しにくいということは答申に結び付かないので、的を絞っていききたい。答申は全体を通してこうあるべきというものも必要だ。小さいものだけにとらわれ過ぎてもいけないと思う。
- 他の文化センターの関係もあると思うが、生涯学習審議会となれば、生涯学習センターの運営に絞った方がいいのではないか。文化センターもとなると、そこまではなかなか勉強できない。私は生涯学習センターをどう運営していこうかと考えていた。
- 生涯学習センターの運営とは考えていなかった。
- ➔ 府中市としては、生涯学習の全般を審議していただきたい。
- もちろんそうなのだが、具体的な話になってくると思う。
- 生涯学習センターは指定管理者になったが、文化センターとは切り離せないと思う。民間になっても連携すれば良い。単独で考えてはおかしくなってしまう。
- 次回の審議会の進め方について、項目を絞っていても時間が足りないと思う。それを中心にして派生的に他の意見も入れていかないと、大きな生涯学習を考えると網羅できないこともあるので、中心になるものを決めなければいけないと思う。
- 生涯学習センターは指定管理を導入したが、教育委員会との取り決めとして、課題や既存事業を継続してもらうことになっているのか。
- ➔ はい。指定管理者と市で協定書を交わしていて、必ず継続してもらう事業があり、その他に業者の提案型事業があれば企画、実施してもらうことになっている。
- 指定管理の選考委員をやっていたが、どんな事業主体が指定管理を受けようと、必ずそこには教育委員会との関係が当然入ってくる。議論の中でも直接、指定管理者に言えなくても、教育委員会には言えるので、全く関係が切れるということはない。

い。生涯学習センターのあり方や文化センターの運営も議論になる。ファシリテーターのような人材について、生涯学習推進計画の10年かけて生涯学習支援に必要な人材をどう育成していくかも課題になるので、それに対しては是非意見を出していただきたい。

- 今まで、小委員会の中で議事録を基に答申を作ってもらっていた。答申に活かす項目をいくつか考えて皆さんに示した方がいいかもしれない。
- 総論から始めても意見がまとまらないので、各論から始めても良いと思う。
- その方が話は出しやすいかもしれない。
- 学校との関係はどうか。
- 一応、入れておいた方が良い。今年度からコミュニティースクールが始まっているので、抜くことはできないと思う。
- 学校と文化センターをどうしていくかという意見も出てくると思う。
- コミュニティースクールにしても人材が問題だと思う。
- ファシリテーターの活用法はどうしたら良いか。
- 明大は講座を作るということは協力しているが、結果としてどう活用するかは府中市が決めることである。人材育成の先は、個人的に意見は言えるが明大から要望は出していない。
- 他市はファシリテーターの講座後、どう活用しているか。
- 実践はあると思うが、府中市の場合は本来、社会教育職員がやるようなことまで、かなり踏み込んだファシリテーターを養成しようとしているので、難しいと思う。そこまでやらせても良いのかと思う。
- ファシリテーター養成講座は、社会教育主事の資格を持っていない人が公民館を担当している。そういう所まで望んで受講させているのか、職員と市民の間に入るに留まるのかが分からない。自主サークルを作って前向きに頑張っていこうという発想もあったが、行政はそこまで関わっていない。
- コーディネーターであればわかるが、ファシリテーターの場合は学習の組織者になり、お手伝いではない。学習ニーズを踏まえながら、自分たちで学習を組織する役割を期待している。
- ファシリテーターという言葉自体を理解できているのか。一般的に知り渡らせるのが難しい。
- 何となくコーディネーターよりは責任が重いような気がする。
- ファシリテーターの卒業生が16人くらいいると思うが、実践はしていないので、役に立たないと思う。実践をするために、育成した人を引っ張っていかないといけない。

- 公民館の講座や企画、立案に関して職員と一緒に運営などに関わっていくのだと思っていたが、活用されていないというのはもったいない話である。
- ファシリテーターを活用する仕組みがあると良い。
- 10年計画の5年が経ったので、せめてもの成果が見えないといけない。
- あとは行政が動いてくれないといけない。
- 市長が協働と言っているが、協働とは市民と行政がお互いに汗をかきあうことである。
- ➡ 人材育成について、その通りだと思う。まだ具体的に方向性が示されていないのは、市として責任を感じている。今後どのような形で協議していただくかは、事務局で準備して、方向性については会長と詰めたうえで進めていきたい。

7 その他

(1) 次回の審議会について

日時：5月26日（月）午後2時～4時

会場：府中駅北第2庁舎 5階会議室